

林業普及週間現地情報(10/4～10/8)

森林管理課

アラゲキクラゲ新規生産者指導

10月7日(木)

名護市内のアラゲキクラゲ新規生産者（のぼたんファーム、代表者 仲村準）から害菌対策等の相談が寄せられていたため、令和3年10月7日に森林資源研究センター研究員と生産指導を行った。

アラゲキクラゲは他のきのこ類に比べ発生温度が高い特性から、県内では収穫可能な期間が長いきのことして、簡易施設での生産が取り組まれている。

簡易施設においては、施設内の温度管理を主にスプリンクラーやミスト等の散水で行っており、夏場など気温の高い時期は比較的湿度が高い状態に保たれていることが多い。湿度が高く保たれている状態は、発生量が多くなる傾向を示す一方で、害菌類が発生しやすい環境となり、菌床も痛みやすくなる。

研究センター研究員から害菌対策として、害菌を誘因する害虫の侵入を防ぐために施設内の密閉性を高めることや害菌類の発生拡大を防ぐために乾湿差をつけることの指導がなされた。生産者からは具体的にどのように乾湿をつけるかや農薬の取扱についての質問が挙げられた。

今回相談が寄せられた生産者は、今年8月から生産を開始したばかりであるため、引き続き、生産指導等に取り組んでいきたい。



写真-1 指導の様子

(報告者：北部農林水産振興センター 今田・玉城・森田)